

教職志望大学生の体育に対する意識に関する研究

Study on the attitude of the students who will acquire elementary school teacher license, preschool teacher license, or nursery school teacher license to the physical education

胡 泰志・古谷 嘉一郎

Yasushi EBISU and Kaichiro FURUTANI

This study investigated the attitude of the students who would acquire the teacher licenses of elementary school, preschool, or nursery school to the physical education comparing with the attitude to the music education. A questionnaire survey was conducted on the eighty students (26 males and 54 females).

The following results were obtained.

1. The supports concerning the physical education had lower evaluation than those concerning the music education.
2. Being good at the physical education much strongly related to the positive attitude to teaching the physical education than liking it.
3. The students who were poor at physical education tended to think they needed much effort at physical education.

1. 目的

小学校教諭は学級経営を基本として全9教科(国語, 社会, 算数, 理科, 生活, 音楽, 図画工作, 家庭, 体育)のほとんど又は全てを担当しなければならない。また, 幼稚園教諭や保育士(以下, 保育者)が指導する内容には, 小学校課程における複数の教科に関連するものもあり, 個々の教科の特性を踏まえた上で指導にあたらなければならない。従って, 小学校教員又は保育者を養成する課程(以下, 教員養成課程)においても, 志望学生に対して全ての教科内容を十分理解させる必要がある。

体育は子どもの心身の健全な発育発達及び健康増進を図るために欠かせない教科の一つである。従って, 体育の成果を保障していくためには, 小学校教諭又は保育者(以下, 教員)は子どもの発育発達段階を適切に見抜き, それに応じた系統的な指導をする必要がある。しかし, 実際に指導にあたっている教員は体育を

専門に修めた者でないことが多く, 教材の選択や実施時期, 指導のポイント等が不明瞭なまま指導が行われていることも少なくない。また, 体育は音楽と同様に, できる・できないがはっきりしている教科であり, 適切な指導ができなかった場合, 体育嫌いの子どもを増やしてしまうこともあり得る。そのため, 体育を教えることのできる教員を養成していくことは, 個々の教員の指導力を保障することのみならず, 教育現場の教育力を維持向上させて行く上でも非常に重要であると考えられる。一方で, 小学校教諭免許取得希望学生が感じる不安の上位に教科指導のあり方が挙げられている(福田, 2009)ように, 全ての教科内容の理解を深めることに十分な時間を費やすことは現実的には期待できない。さらに, 教員養成課程学生の中には体育を苦手とする者も見受けられ, 学校の授業以外で運動経験がほとんどない学生もいる。従って, これら教員養成課程学生に対して, 体育に関する理解を深めるために十分な支援をすることは教員養成課程を有する大学

の責務であると言えよう。

そこで本研究では体育に関する意識調査を実施し、体育と同様にできる・できないがはっきりしている教科である音楽と比較することによって、教員養成課程学生の体育に関する認識を明らかにすること及び学生への支援策のあり方について検討すること目的とする。

II. 方法

A. 調査対象者及び調査方法

H大学生80名(男子26名,女子54名)であった。全員が1年生で,小学校教諭免許,幼稚園教諭免許及び保育士免許の何れか又は複数の取得を希望していた。2010年9月に調査の内容と目的を説明して協力を依頼し,学生は自由意志に基づき無記名で調査に参加した。

B. 質問紙の内容

1. 教職(小学校)及び保育職(幼稚園・保育所)についての意識項目(5項目)

小学校教諭,幼稚園教諭及び保育士にどの程度なりたかについて,「1:全くなりたくない」から「5:非常になりたい」までの5件法で尋ねた。また,それぞれの職に就ける自信の程度について,「1:全く自信がない」から「5:非常に自信がある」までの5件法で尋ねた。さらに,最も就きたい職業を1つ回答させた。

2. 体育に関する意識項目(9項目)

体育の授業に関して,学生の苦手意識,授業を教える自信及び志望職に就くための努力の必要性について5件法で尋ねた(表1)。また,志望職への就職という観点から,大学や学科のサポート体制の有用性について5件法で尋ねた。

3. 体育の内容に関する意識項目(5項目)

小学校指導要領体育編解説(文部科学省,2009),幼稚園教育要領解説(文部科学省,2008)及び保育所保育指針解説書(厚生労働省,2008)を参考に体育の教科内容5項目を設定し,それぞれの項目について「自分ができる」及び「子どもに教えることができる」かを「1:全くできない」から「5:とてもできる」の5件法で尋ねた。具体的な項目は「器械運動(マット運動/鉄棒運動/跳び箱運動)」、「陸上運動(短距離走/リレー/ハードル走/走り幅跳び/走り高跳び)」、「水泳(クロール/平泳ぎなど)」、「ボール運動(バスケットボール/サッカー/ソフトボール/ソフトバレーボールなど)」及び「表現運動(フォークダンス/リズムダンスなど)」であった。

4. 音楽に関する意識項目(9項目)

音楽の授業に関して,学生の苦手意識,授業を教える自信及び志望職に就くための努力の必要性について5件法で尋ねた(表2)。また,志望職就職という観点から大学や学科のサポート体制の有用性について5件法で尋ねた。

5. 音楽の内容に関する意識項目(3項目)

小学校指導要領体育編解説(文部科学省,2009),幼稚園教育要領解説(文部科学省,2008)及び保育所保育指針解説書(厚生労働省,2008)を参考に音楽の教科内容3項目を設定し,それぞれの項目について「自分ができる」及び「子どもに教えることができる」かを「1:全くできない」から「5:とてもできる」の5件法で尋ねた。具体的な項目は「歌唱(文部省唱歌/古謡/わらべうたなど)」、「楽器演奏(木琴/鉄琴/オルガン/ハーモニカ/リコーダーなど)」及び「音楽に関する用語の理解(音符/休符/記号など)」であった。

表1. 体育に関する意識項目

あなたは体育の授業が得意ですか。	とても苦手である 1-2-3-4-5	とても得意である
あなたは体育の授業が好きですか。	とても嫌いだ 1-2-3-4-5	とても好きである
あなたは子どもたちに体育の授業を教える自信がありますか。	全く自信がない 1-2-3-4-5	非常に自信がある
あなたは子どもたちに体育の授業を教えたいですか。	全く教えたくない 1-2-3-4-5	とても教えたい
あなたが保育者または小学校教員になるために,体育についてどの程度努力する必要があると思いますか。	全く必要ない 1-2-3-4-5	とても必要である
あなたが保育者または小学校教員になるために,学科は協力的だと思いますか。	全く協力的でない 1-2-3-4-5	非常に協力的である
あなたが保育者または小学校教員になるために,体育に関する大学の設備や器材は役に立つと思いますか。	全く役に立たない 1-2-3-4-5	非常に役に立つ
あなたが保育者または小学校教員になるために,体育に関する大学の授業は役に立つと思いますか。	全く役に立たない 1-2-3-4-5	非常に役に立つ
あなたが保育者または小学校教員になるために,体育に関する大学の授業以外のプログラムは役に立つと思いますか。	全く役に立たない 1-2-3-4-5	非常に役に立つ

表2. 音楽に関する意識項目

あなたは音楽の授業が得意ですか。	とても苦手である	1-2-3-4-5	とても得意である
あなたは音楽の授業が好きですか。	とても嫌いだ	1-2-3-4-5	とても好きである
あなたは子どもたちに音楽の授業を教える自信がありますか。	全く自信がない	1-2-3-4-5	非常に自信がある
あなたは子どもたちに音楽の授業を教えたいですか。	全く教えたくない	1-2-3-4-5	とても教えたい
あなたが保育者または小学校教員になるために、音楽についてどの程度努力する必要があると思いますか。	全く必要ない	1-2-3-4-5	とても必要である
あなたが保育者または小学校教員になるために、学科は協力的だと思いますか。	全く協力的でない	1-2-3-4-5	非常に協力的である
あなたが保育者または小学校教員になるために、音楽に関する大学の設備や器材は役に立つと思いますか。	全く役に立たない	1-2-3-4-5	非常に役に立つ
あなたが保育者または小学校教員になるために、音楽に関する大学の授業は役に立つと思いますか。	全く役に立たない	1-2-3-4-5	非常に役に立つ
あなたが保育者または小学校教員になるために、音楽に関する大学の授業以外のプログラムは役に立つと思いますか。	全く役に立たない	1-2-3-4-5	非常に役に立つ

6. 性別及び年齢

調査対象者の性別及び年齢を尋ねた。

く、全体として自信の程度が低い傾向を示した。

III. 結果

A. 卒業後の進路に関する意識

分析対象者は80名(男子26名, 女子54名)であった(18.5±0.50才)。最も就きたい進路を一つだけ選択させた結果, 小学校教諭が最も多く, 全体の43.7%が志望していた(表3)。保育士及び幼稚園教諭がこれに続き, それぞれ全体の35.0%及び15.0%であった。なお, その他の進路として, 中学校教諭及び図書館司書を挙げている学生や, 病児保育に携わることを希望している学生もいた。

表3. 卒業後の希望進路

	小学校教諭	幼稚園教諭	保育士	その他	合計
男子	16(61.6)	1(3.8)	6(23.1)	3(11.5)	26
女子	19(35.2)	11(20.4)	22(40.7)	2(3.7)	54
合計	35(43.7)	12(15.0)	28(35.0)	5(6.3)	80

カッコ内は%

表4に保育者及び小学校教諭になれる自信の程度とそれぞれの進路を志望する程度との関連を示した。保育者については, 多くの学生がなりたいたと考えていた。小学校教諭については, 多くの学生がなりたいたと考えている一方で, 非常になりたいたと考えている学生も多く, 二極化の傾向を示していた。また, 保育職に就く自信の程度については, 中程度の自信を持っている学生に加えて自信のない学生が多く, 全体としてやや自信がない傾向があった。一方, 小学校教諭職については, 保育職と比べてより自信がない学生の割合が多

表4-1. 保育職に就く自信と進路希望との関連

	保育者になれる自信					合計
	1: 全く自信がない	2	3	4	5: 非常に自信がある	
1: 全くなりたくない	1	0	0	0	0	1
2	2	4	2	0	0	8
3	0	6	10	1	1	18
4	2	6	18	2	0	28
5: 非常になりたいた	0	6	12	6	1	25
合計	5	22	42	9	2	80

表4-2. 小学校教諭に就く自信と進路希望との関連

	小学校教諭になれる自信					合計
	1: 全く自信がない	2	3	4	5: 非常に自信がある	
1: 全くなりたくない	4	0	0	0	0	4
2	13	7	0	0	0	20
3	1	13	3	1	1	19
4	0	2	5	2	0	9
5: 非常になりたいた	2	2	11	8	5	28
合計	20	24	19	11	6	80

B. サポート体制についての意識

表5に体育及び音楽に関するサポート体制についての意識を示した。学科の協力姿勢, 設備器材, 大学の授業及び授業以外のプログラムの各項目とも, 学生は好意的に捉えていた。また, 全ての項目において, 音楽に関するサポート体制の方が良いと考えていた(p < .01)。なお, 苦手意識とサポート体制についての意識との組み合わせで分析を実施したが, 苦手意識が高い学生ほど両教科間の意識の差が大きくなるという関係性は認められなかった。

表5. 体育及び音楽に関するサポート体制についての意識

	体育	音楽	t	p
学科は協力的	4.5 (0.74)	4.7 (0.51)	3.36	**
大学の設備や器材	4.2 (0.72)	4.8 (0.43)	7.44	**
大学の授業	4.4 (0.66)	4.8 (0.41)	6.13	**
大学の授業以外のプログラム	3.8 (0.82)	4.3 (0.78)	5.11	**

Note. **: $p < .01$

C. 体育及び音楽の授業に関する各意識間の関連

表6に体育及び音楽の授業に関する各意識間の関連を示した。体育の授業が得意なことと体育の授業が好きなこととの間に強い相関が認められ ($r = .75$, $p < .01$), 体育が得意な学生ほど体育が好きであった。子どもに体育を教える自信と体育の授業が得意なこととの間に比較的強い相関関係が認められ ($r = .64$, $p < .01$), 体育が得意な学生ほど体育を教える自信があった。子どもに体育を教える自信と体育の授業が好きなこととの間にも比較的強い相関関係が認められたもの ($r = .54$, $p < .01$), 体育が得意なことほど強い関係ではなかった。体育の授業実施を希望することと体育を教える自信との間に比較的強い相関関係が認められ (それぞれ $r = .68$, $p < .01$), 体育を教える自信がある学生ほど体育の授業をしたいと考えていた。体育の授業実施を希望することと体育が得意なこと及び体育が好きなこととの間にも比較的強い相関関係が認められたもの (それぞれ $r = .50$, $p < .01$), 体育を教える自信ほど強いものではなかった。体育の授業実施を希望することと体育について努力をする必要性との間に弱い相関関係が認められ ($r = .23$, $p < .05$), 体育の授業をやりたい学生ほど体育に関して努力が必要であると考えた傾向があった。一方、体育が得意なことと体育について努力をする必要性との間に弱い負の相関関係が認められ ($r = -.23$, $p < .05$), 体育が苦手な学生ほど努力をする必要性があると考えた傾向があった。

音楽の授業が得意なことと音楽の授業が好きなこととの間に比較的強い相関が認められ ($r = .62$, $p < .01$), 音楽が得意な学生ほど音楽が好きであった。子どもに音楽を教える自信と音楽の授業が得意なこととの間に強い相関関係が認められ ($r = .71$, $p < .01$), 音楽が得意な学生ほど音楽を教える自信があった。子どもに音楽を教える自信と音楽の授業が好きなこと

の間にも比較的強い相関関係が認められたもの ($r = .59$, $p < .01$), 音楽が得意であることほど強いものではなかった。音楽の授業実施を希望することと音楽を教える自信との間に比較的強い相関関係が認められ ($r = .67$, $p < .01$), 音楽を教える自信がある学生ほど音楽の授業をしたいと考えていた。音楽の授業実施を希望することと音楽が得意なこと ($r = .51$, $p < .01$) 及び音楽が好きなこと ($r = .61$, $p < .01$) との間にも比較的強い相関関係が認められたもの、音楽を教える自信ほど強いものではなかった。音楽について努力をする必要性については、音楽が得意なこと及び音楽が好きなこと、子どもに音楽を教える自信、音楽の授業実施を希望することとは関連性は認められなかった。

表6-1. 体育の授業に関する各意識間の関連

	1	2	3	4	5	Mean	SD
1. あなたは体育の授業が得意ですか。	1					3.29	1.07
2. あなたは体育の授業が好きですか。	.75**	1				4.03	.94
3. あなたは子どもたちに体育の授業を教える自信がありますか。	.64**	.54**	1			2.84	.96
4. あなたは子どもたちに体育の授業を教えたいですか。	.50**	.50**	.68**	1		3.38	1.18
5. あなたが保育者または小学校教員になるために、体育についてのどの程度努力する必要がありますか。	-.23*	.04	.00	.23*	1	4.48	.67

Note. **: $p < .01$, * $p < .05$

表6-2. 音楽の授業に関する各意識間の関連

	1	2	3	4	5	Mean	SD
1. あなたは音楽の授業が得意ですか。	1					3.33	1.13
2. あなたは音楽の授業が好きですか。	.62**	1				4.16	1.01
3. あなたは子どもたちに音楽の授業を教える自信がありますか。	.71**	.59**	1			2.79	1.10
4. あなたは子どもたちに音楽の授業を教えたいですか。	.51**	.61**	.67**	1		3.53	1.22
5. あなたが保育者または小学校教員になるために、音楽についてのどの程度努力する必要がありますか。	-.15	-.08	-.15	-.07	1	4.73	.53

Note. **: $p < .01$, * $p < .05$

D. 教科内容に対する自信と教科内容を子どもに教える自信との関連

表7に体育及び音楽の教科内容に対する自信の程度と教科内容を子どもに教える自信の程度との関連を示した。全ての教科内容について、自信の程度と子ども

に教える自信の程度との間に有意な相関関係が認められた ($p < .01$)。体育の教科内容で強い相関関係が認められたものはボール運動 (バスケットボール/サッカー/ソフトボール/ソフトバレーボールなど) 及び表現運動 (フォークダンス/リズムダンスなど) であった ($r = .74$)。比較的強い相関関係が認められたものは水泳 (クロール/平泳ぎなど) ($r = .70$) 及び陸上運動 (短距離走/リレー/ハードル走/走り幅跳び/走り高跳び) ($r = .67$)、器械運動 (マット運動/鉄棒運動/跳び箱運動) ($r = .57$) であった。音楽の教科内容は全て強い相関関係が認められた。最も相関関係が強かったものは音楽に関する用語の理解 (音符/休符/記号など) で ($r = .84$)、次いで楽器演奏 (木琴/鉄琴/オルガン/ハーモニカ/リコーダーなど) ($r = .83$) 及び歌唱 (文部省唱歌/古謡/わらべうたなど) ($r = .75$) の順であった。また、音楽の教科内容はどれも体育と比べより強い相関関係を示していた。

表7. 各教科内容に対する自信と教える自信との関連

体 育	器械運動	.57 **
	陸上運動	.67 **
	水泳	.70 **
	ボール運動	.74 **
	表現運動	.74 **
音 楽	歌唱	.75 **
	楽器演奏	.83 **
	音楽用語理解	.84 **

Note. **: $p < .01$

IV. 考察

卒業後の進路希望とその職に就ける自信との関係から、卒業後の進路として保育職を考えた場合、全体としてやや自信がない傾向があった。一方で卒業後の進路として小学校教諭職を考えた場合、保育職を考えた場合より自信のない傾向が強かった。小学校教諭職として採用されるためには教員採用試験を受験しなければならない。教員採用試験は専門教養試験のみならず一般教養試験も課され、高い専門性に加えて幅広い見識を問われる。そのため、希望者は採用試験対策として広範囲にわたる勉強をしなければならない。保育職も本来、高い専門性及び幅広い見識を求められる職業である。従って、特に公立の幼稚園・保育所への採用

を希望する場合、小学校教諭職と同様に広範囲にわたる採用試験対策をしなければならない。しかし、保育職の募集数のうち、公立の幼稚園・保育所の募集数は常に少ない。そのため、教職志望学生間には、保育職より小学校教諭職の方が難しいという、漠然とした認識が出来上がっている。従って、現実の問題として教員採用試験を考えた場合、自己の学力に対する不安感が自信のなさに繋がっているものと考えられる。また、体育や音楽が苦手な学生の場合、免許状を取得する過程で体育や音楽及び関連科目も受講しなければならないため、免許状取得自体に困難が伴う。これらのことが卒業後の進路として小学校教諭職を考えた場合の自信のなさに影響を及ぼす原因の一部である可能性が考えられる。以上のことから、特に小学校教諭免許取得希望学生に対し、4年間の大学生活の中で苦手教科を克服し、未来の小学校教諭として自信を持って学修できる環境を整備していく必要があると言えよう。

体育及び音楽に関するサポート体制についての意識は、学科の協力姿勢及び設備器材、大学の授業、授業以外のプログラムの各項目とも音楽の方が高評価であった。本研究の調査対象者が所属するH大学では、体育の授業は1名の教員が指導にあたっているのに対し、音楽の授業は複数教員での指導体制をとっている。また、空き時間に電子ピアノを使用できるなど、授業以外でのサポート体制も音楽の方が整っている。このように、体育と比べ音楽に関するサポート体制が良いことが音楽の高評価につながっているものと考えられる。そのため、音楽と同様に、体育の苦手な学生ほど正課外での実技練習を十分に行う必要がある。従って予算や人員の制約はあるものの、学生の空き時間に自由に練習ができる施設・設備の整備や指導者の確保をしていく必要があると言えよう。

体育の授業に関する各意識間の関連から、体育が得意であることの方が好きであることより、教科を教える自信に強く関連しており、単に体育が好きになることだけでなく、得意になることが指導への自信につながっていくことが示された。また、体育を教える自信と体育の授業実施を希望することは比較的強く関連していたことから、体育が得意になることが体育を教える自信の下支えとなり、体育の授業をやりたいという意識につながっていくことが示された。そして、体育の授業実施を希望することと体育に関する努力をする

必要性との関連から、体育の授業をやりたいと希望する学生は体育に関する努力を惜しまないという可能性が示された。従って、教員志望学生に対し、在学中に体育をできるようにすることが重要で、体育ができるようになることは教員を目指す者としての自信や日々の学修への動機づけにつながっていくものと考えられる。また、体育が苦手な学生ほど努力をする必要性があると考える傾向があった。体育が苦手な児童・生徒は一定数存在し、苦手意識の原因としてできないことが挙げられている（玉城，1987；玉城，1988a；玉城，1988b）。本研究の調査対象であったH大学では入学試験に体育は課されていないため、今後も体育がまったくできない学生が入学している可能性がある。これらの学生に対し体育に関する支援を十分行うことは学力保障の面のみならず、指導力のある教員を養成するという観点からも有益である。体育の苦手な子どもの気持ちを理解でき、かつ指導力のある教員が増えていくなれば、体育嫌いの子どもの数も減らすことができるのではないだろうか。

教科内容に対する自信と教科内容を教えることの自信との関連から、音楽の全教科内容について両者の強い関連が示された。このことから、音楽においては各教科内容をできるようにすることが指導力向上につながる可能性が考えられたが、体育では教科内容によってその関連性にばらつきがあった。ボール運動及び表現運動は音楽と同様に、自分ができるようになることが指導力向上につながって行くものと考えられた。一方、水泳及び陸上運動、器械運動においては両者の関連はやや弱いものであり、他の要因が両者の関係に影響を及ぼしている可能性が考えられた。体育において、できる・できないが明確な種目や他者との優劣が歴然としている種目は嫌いになる傾向にある（玉城，1988a；玉城，1988b）。水泳及び器械運動はできる・できないがはっきり分かる種目であり、陸上運動は他者との優劣が明確に分かる種目が含まれることから、指導が困難だと感じている可能性がある。例えば、水泳嫌いの子どもの中には水に入ること自体が嫌いになる者もいる。そのような者に対し水泳指導を行うことは非常に困難で、水泳の専門家でも対応に苦慮することが多い。今回は指導の難易度については調査していないため、この観点からの考察はできないが、今後の検討課題とした。

V. 要約

本研究では体育に関する意識調査を実施し、音楽と比較することによって、教員養成課程学生の体育に関する認識を明らかにすること及び学生への支援策のあり方について検討すること目的とした。その結果、以下の知見を得た。

- ①体育に関するサポート体制は音楽より低い評価であった。
- ②体育が得意であることは好きであることより体育指導の自信と強く関連していた。
- ③体育が苦手な学生は体育について努力をする必要性を感じる傾向があった。

引用・参考文献

- 福田啓子 (2009). 小学校教育実習における現状と展望 (Ⅲ) — 学生の教職感に関する調査から — 東京家政大学研究紀要, 50(1), 71-77.
- 厚生労働省 (2008). 保育所保育指針解説書 フレーベル館
- 文部科学省 (2009). 小学校学習指導要領解説 音楽編 東洋館出版社
- 文部科学省 (2009). 小学校学習指導要領解説 体育編 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- 玉城昭子 (1987). 体育学習に関する小学生の意識 — 体育は「どちらかといえば得意～どちらかといえば苦手」意識を持つ二群の比較 — 琉球大学教育学部紀要 第二部, 30, 107-120.
- 玉城昭子 (1988a). 体育学習に関する中学生の意識 — 体育得意～苦手意識を持つ二群の比較 — 琉球大学教育学部紀要 第一部・第二部, 32, 197-210.
- 玉城昭子 (1988b). 体育学習に関する高校生の意識 体育得意～苦手意識を持つ二群の比較 琉球大学教育学部紀要 第一部・第二部, 33, 369-383.
- <キーワード>
体育, 意識調査, 教員養成, 小学校教諭, 保育者

胡 泰志 (子ども発達教育学科)
古谷嘉一郎 (社会臨床心理学科)
(2010. 10. 29 受理)